



文部科学省科研費指定研究機関
バイオフィリア研究所有限会社
代表取締役・教授 滝沢茂男

事業再構築補助金に係る開発委員会開設にあたって

要旨

今回多年の研究が実り、社会に普及するための開発が始まり、研究のために多くの先生方が協力をしてくれることになりました。このご協力をから、開発委員会を組織していただきましたことは、事業再構築補助金による機器開発代表者として大変光栄なことと存じます。委員会設置にあたり、[これまでの研究の経過](#)、[研究の実際](#)、[学会活動\(日本語\)](#)を参考資料にお示しました。そして、本稿では、このような長期にわたる研究が実現できた私自身の心構えや考え方について、次の7項で纏めました。

1.あなたは誰、2.新たなリハ手法の発見、3.リンゴの落下、持続可能な長寿社会確立への決意、4.超高齢社会(長寿社会)、5.私の人生の課題、6.大変だった最初の6年間、7.基礎研究終了の自覚と、長寿社会確立へ機器普及のための開発

この研究が長寿社会を実現した、又は実現しつつある人類にとって大きな福音となることを確信しています。皆さんのご参加とご協力をお願いします。今後は、世界に向けた、この開発による機器製作、資金手当て、普及、利用方法の明確化などの情報発信を私の次の仕事として頑張って参ります。



図1 開発委員会設置



図2 機器開発開始

1. あなたは誰

私は医師でも理学療法士でも研究者でもありません。2022年の国内学会で、母の滝沢恭子がこの研究を進めたという話が出ましたので、30年以上前の当時の状況を含め、リハビリテーション(リハビリ)医療の再構築を志した理由説明します。青春時代に私自身は哲学坊やで、人間としての

生き様をどのようにしたらよいかと、思い悩みました。そして、政治家として国民に貢献する人間になろうと志しました。

2. 新たなリハビリ手法の発見

私は、「あなたのしているリハビリはシステムです。システムとして社会に出せば多くの人が助かる」と、PT である母に言いました。母に、情報開示を、毎日、倦むことなく6年間も求めたのです。横浜国大の高田教授が「あなたの研究で一番大変だったのは最初の 6 年間ですね。」というほどでした。協力してくれていたなら、私自身は県議員を経て衆議院議員になり、菅さんと同じ総理大臣と言わないまでも、同期の国会議員として、このリハビリの社会化については口を酸っぱく進めることで、もっと早く、社会化が実現できたと考えています。

3. リングの落下、持続可能な長寿社会確立への決意

確かに彼女が初めに行いました。一例を引きますが、リングが落ち、ニュートンは「万有引力」を見出しました。リングが見出したわけではありません。私が彼女のリハビリを見て、超高齢社会の持続可能性を見出したことで、この仕事を始め、専任で従事しました。

つい先日、高校時代のクラス会開催の幹事引き受けたことから、同級生から次のメールをもらいました。「滝沢くん 福井先生を中心にしたクラス会の連絡有難うございます。・・・高校の時、席が近くて 私に総理大臣になると言う夢を語ってくれました。こいつは凄い奴か？ バカか？と思いつつも心躍って聞いていましたが、実際市議員になったと聞いて(最初の立候補・670 票で最下位落選、2 度目の立候補・3 倍得票し次点者と 1 票差の最下位当選)凄い奴なんだと将来を楽しみにしていました。現在 心に定めて没頭している仕事とは何ですか？実現するのか 成功するのか どちらにしても心より応援いたします。クラスメイトにこんな人がいたことを誇りに思います。お忙しいのに有難うございます。 木村祥子」、「2名の後継市議を当選させていながら、なぜ県議にならなかったのか」、さらに、「なんだ、総理大臣にならなかったのか」、と言う友人もいました。県会議長から後継指名を受け、一旦は受諾しましたが、心に定めて没頭している仕事(リハビリ医学の再構築)を実現するため、残念ながら辞退しました。藤沢では人材がなくて市議員が衆議院議員になりました。続けていれば菅さんと同期の衆議院議員になったと、勝手に思っています。

4. 超高齢社会(長寿社会)

日本でも世界的にも長寿社会が進んでいく中で人類が幸せに暮らせるようにする。私たちが高齢になった時に社会貢献ができる生活をできるかと考えた時に、リハビリ医療再構築を行うこと必要であり、私はその方法を見いだしたので、その社会化が使命だと考えました。その後、[これまでの研究の経過、研究の実際、学会活動\(日本語\)](#)のように研究をすすめました。

1996年の1月ごろ、図1の小さなだるまを準備した時期でした。開発関連の通産官僚と電車に乗ったとき、速度違反でつかまった話をしました。高速道路でのスピード違反でパトカーにつかまったのです。後にも先にもこの時だけの経験でした。県議を辞退したことが間違いでなかったかと自問していたのだと、話したのです。「県議になって何をやるんだ」と言われ、話は終わりました。後に同じ通産官僚の尾澤さん(開発委員)に「寝たきり老人を歩かせる」を出版したとき、意をくんでいただきとても素晴らしい序文をいただきました。歩行器開発に関する祝辞は、寄稿いただいたものの掲載しませんでした。

5. 私の人生の課題

青春時代に、2つの課題を解決することを自分に課しました。その一つ超高齢社会の課題解決であり、[2国間セミナー](#)で、リハ医療の再構築について、これまでの研究の経過、研究の実際、そして、学会活動をお示した様に超高齢社会が持続可能であることを示す事ができたと考えています。

もう一つは共産主義の打倒でした。市会議員の時、藤沢市長は共産党の活動家でした。この共産党市長は選挙が強く、打倒する意欲のあるものは現れませんでした。私は学生時代の学習で、共産主義が間違っている、他者からの収奪によってのみ持続できる社会であると認識していました。

現在ウクライナ戦争が行われ、多くの人を知るようになった事実があります。ウクライナの人々が虐げられ、飢饉の時に政策的に収奪し、ソ連で弾圧と飢餓で2000万人の死者が出たときに、穀倉地帯であった同国ではそのうち350万人が餓死し、弾圧と合計で1000万人が死んだと聞きます。共産主義になってはならないと確信し、共産党市政を何としても打倒すると思えました。その刺激のために、2名の後継者を当選させ、それをもって、市長に圧力を掛けました。その内容は「ロマンの海ってなに」と題した、議会の代表質問で明らかにし、出版しました。国会図書館にはありますし、時期を見てKindle本にしたいと思っています。私に市長打倒の出番は来ませんでした。そのこともあり、県会議長の後継指名を受けたわけです。そうした青春時代の思いから、私は1987年以来の長期間(当時39歳)、自分自身の生の理由として、この研究を、無償で、ほとんど無休で続けてきたのです。

6. 大変だった最初の6年間

母のリハの情報公開まで、議員辞職と6年を要しましたが、「寝たきり老人を歩かせる」著作が可能になりました。私の県会議長後継としての政治再参入が不可能になったことで、社会化に向けて苦戦を続けるようになったことは残念に思っています。学会の発足時に顧問に就任した日本臨床整形外科学会の元理事長故金井司郎氏が「俺たちが見出さなければいけなかった」と述べました。藤沢市整形外科医会は、当時の老人保健法による機能訓練会の設置に反対し、茅ヶ崎市に6か月遅れて発足しました。発足の合意に、医師の常駐が入っていたので、金井氏ほか市の整形外科医は、参加者が歩行を再獲得したり、障害を克服して生活する状況を目の当たりにしていました。私は議員として、発足の経緯を承知していたので、今でも強く心に残っています。写真1のちいさなダルマは、1996年研究専業を覚悟したときに、社会貢献出来ると確信したときに目を入れようと準備したものです。2022年に実現しました。

7. 基礎研究終了の自覚と、長寿社会確立へ機器普及のための開発

今回 PMDA との話合いもつきました。さらには2000年に、「医学的見地に基づく高齢者下肢機能回復度の評価」を通商産業省関東通商産業局・NEDO のベンチャー企業支援型地域コンソーシアム研究開発申請以来、機器開発に多数の補助申請をしてきました。全て残念賞でした。いよいよ量産型機器の補助金もついて、これから社会に、新しい面での研究、貢献を実現するための活動をしていくことになります。これにあたり、開発にご協力いただける先生方に、開発委員をお願いしました。だるまの両目を開けて、(写真1ダルマの目入れ)、そして、写真2ダルマの片目入れにあるように、社会化に向けた決意を示すために、前回より大きいダルマを準備しました。開発機器と、委員から互選された田中委員長、副委員長ミエテック、森田、和田の協力指導を基に、急性期にも利用できる我々の機器を用いた自律リハ医療の体系を参加研究者と共に作り、リハ医学の「障害の受容」を「障害の克服」へ転換し、リハ医学のパラダイムシフトを実現し、持続可能な長寿社会構築に大きな貢献ができると確信しています。

だるまの目の入れを行った委員会発足日、人類に大きな貢献ができると、私は確信し、報告しました。しかしながらその実現には皆様の一層の協力が必要です。

これからの新しい取り組みに皆さんと力を併せ、ともに進んでいくことを誓います。

今後、この開発の社会化により、持続可能な長寿社会を確立できます。開発委員会へこれから参加される皆様を中心になって、進めていただくことを期待しています。

資料

これまでの研究の経過 <https://www.biophilia.biz/haikai.html>

研究の実際 <https://www.biophilia.biz/kaken/itirann2.html>

学会活動 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/brj/list/-char/ja>

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ibra/2018/0/_contents/-char/en

著者紹介 <https://researchmap.jp/taki/?lang=japanese>

2国間セミナー <https://www.biophilia.biz/seminar/01.shtml>

PMDA Pharmaceuticals and Medical Devices Agency 独立行政法人医薬品医療機器総合機構